

世界に誇れる

日本の

医療保険

世界保険新聞

世界の保険制度



アメリカの、公的な医療保険制度は、65歳以上の高齢者と障害者が対象の「メディケイド」、低所得層が対象の「メディケッド」のみ。そのため、現役世代の人は必ず、民間の医療保険に入らないといけないが、まだ無保険者の人が多いのが課題となっている。



イギリスは、国民保健サービスがあり、基本は自己負担や保険料負担なしに医療サービスを受けられる。だが、医療は日本と違いフリーアクセスではないため、かかりつけ医にしか診てもらえないというデメリットも。



ドイツは、世界で最も早く公的な医療保険制度を導入した国である。今では、国民の約9割が公的医療保険制度に入っている。日本と違って、公的医療保険制度も選択式となっている。

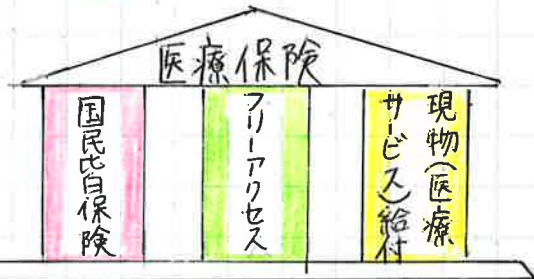
世界の治療費 (都市別)

1位	ニューヨーク(アメリカ)	約150万円
2位	パリ(フランス)	約20~90万円
3位	マドリッド(スペイン)	約50~90万円
10位	日本	約30万円

こんなに差がある。

編集後期

日本には、こんなに素晴らしい保険制度があるのかと驚きました。世界の比べても、誇れるような制度だと思いました。大人になるまで、あと4年、しっかり自分も考えていきたいです。



日本の医療保険制度

日本の医療保険制度とは？

日本は国民全員が公的医療保険に加入して医療費を支え合う国民皆保険制度が導入されている。この国民皆保険制度には大きく3つの優れた特徴があるのを見なさんご存じだろうか。

- ① **国民皆保険**
日本はすべての国民が医療保険に加入している。
- ② **フリーアクセス**
何の制限もなく、自由にとの医師にも診てもらえる。
- ③ **現物(医療サービス)給付**
薬や手術も、一部負担金のみで受けられる。

発行者

北野中学校
2年3組
白田楓梨

このように、私達は当たり前かのような医療保険制度によって、少ない費用で充実した医療を提供してもらっていることがわかった。ところで、世界の医療保険制度はどのようなものなのか。日本のこの3つの優れた特徴と違うのは、世界において誇れるものなのか。今回は、アメリカ、ドイツの医療保険制度について調べてみた。ぜひ、日本の医療保険制度と、照らし合わせて見てほしい。

民間の医療保険

まず、民間の医療保険は、公的医療保険だけではカバーしきれない医療費等を補うもの。加入することで、病気や怪我による入院・通院費用等の経済的負担をできるだけ抑えることができる。

選ぶときのポイント

選ぶときのポイントとは？
まず、**定期タイプ**(保障される期間が定められている)か、**終身タイプ**(保障が一生涯続く)を決めるのが大事。どのくらいの期間の保障かを自分の中で決めてから選ぶのがよい選び方。また、年代で選ぶ必要最低限の保障を選ぶ。
① 10代 不慮な保障をはずし、必要な保障を
② 20代 必要最低限の保障を選ぶ。
③ 30代 手厚い医療保険に入る。
と、決めておくのも1つのポイント。